

## シグマ委員会核データ情報／評価専門部会 熱中性子散乱W.G. 第4回会合議事録

日 時 昭和45年1月23日(金)午後1時～5時40分

場 所 原研東京本部第2会議室

出席者 坂本, 後藤, 角谷, 関谷, 大竹, 中嶋, 中原, 飯島, 以上8名

配布資料

1. シグマ委員会核データ情報／評価専門部会

熱中性子散乱W.G. 第3回会合議事録

2. Data sheetの記入法

記入例及びsheetの見本 (坂本)

3. Heinkelothの論文

4. THRUSHコードのマニュアル及び計算例 (角谷)

5. D<sub>2</sub>Oについての計算 (角谷)

6. ZrHxの散乱断面積 (中原)

議長 後藤頼男

議事

1. 前回議事録確認

訂正及び追加事項なし

2. 一般報告及び来年度の方針

中嶋氏より大要次のような発言があった。この前の幹事会で西村氏より熱中性子散乱W.G. は来年度は計算費はいらないという発言が情報／評価合同部会の会合の時中原氏よりあったとの報告があった。幹事会で熱中性子W.G. の成果がまとめたところで、今年度中に発表会をやつたらどうかとの suggestion があつた。その件についてどうするか決めて頂きたい。会合の運営費としては4万円位までは出せる。旅費については委員には出せるが、委員でない人の分は出ない。来年度の予算については、局の査定の範

囲では情報／評価で730万円、炉定数300万円、研究室250万円となつてゐる。明日大蔵の査定が発表される。

熱中性子W. G. の来年度の計算費がゼロであるということについて先ず議論が集中した。次に主な討論の概略を示す。

(坂本) 計算をしないということを幹事会ではどう評価しているか。

(中嶋) 幹事会は本委員会の議案をつくるだけで結論は下さない。その問題は当事者の意向による。グループは存続させよという意見は出ていた。報告会の件については1月中にはつきりさせて欲しい。

(飯島) 計算費について西村氏から電話があった時にはそういうことでいふと言つておいた。

こゝで発表会開催の件について結論を出そうということで議論した結果、作業に一区切りができた場合にどのW. G. でも成果の発表を開くことを習慣づけようということで、開催することに決つた。更に次のことが確認された。

発表会の日 時 3月中旬 朝から1日

規 模 30～40名

具体案は飯島、坂本、中原で相談して決める。

中嶋氏より情報検索システムにこのグループからも1人出した方が良いのではないかとの発言があつた。また、センターに設置する計算機に関するアンケートを委員全員に出すとの発言があつた。

中嶋氏より今年度の計算費の使用状況について質問があり、角谷氏及び中原氏より40万円近く残つてゐるが、使い切るとの発言があつた。

こゝでまた来年度の計算費について議論が行われた。

飯島、坂本、中原の各氏より計算費ゼロの件についての事情説明があつた。

角谷氏より上から命令があれば、来年度も作業を続ける意志のあることが表明されたが、特に金をつけて計算をして貰いたいという要求は出でていないとの発言が中嶋氏よりあつた。

結局、グループのメンバーの中からも計算費の要求がでないこともあって、計算費はゼロでも良いということになつた。

外部から計算依頼があつた場合の処理の仕方について角谷氏から発言があり、中嶋氏より次のような説明があつた。その場合の手続きは決っており、依頼者からコードの借用依頼を出して頂き、その上で核データ研の方から作成者に連絡してコードを貸し出す。使用上の指導は作成者にして頂く。

データ・ファイル作成の現状が上層部に全く伝わっていないとの発言が中嶋氏よりあり、ここでデータ・ファイルについての議論が行われた。次のような意見が出された。

ファイルを作る努力は続けるべきである。

ファイルを作るのには非常に労力と時間がかかることと各委員とも多忙になり、時間をなかなか都合できないため困難な状況になってきている。部分的にはあるが、既にできているものについてはそれを公開し、未完成のものについてはコードを公開して依頼者に計算させればよいのではないか。

ファイルの仕事は片手間ではできない。

センターに熱中性子専門の人が1人必要である。

上部組織と下部W. G. の連絡が悪いのは双方の責任である。W. G. 代表者には積極的に活動している人を加えた方がよい。

結局、来年度の計算関係の作業については、作業を続ける必要はあるが、現実の問題として力をさけないので、計算費はとつておかないと、原研で計算できる体制を保持するということになつた。

W. G. に対する上部組織のリーダー・シップ及び態度について多くの苦情や注文が出された。

個人的な負担では処理できなくなりつつある計算サービスや文献調査等の仕事はセンターに移管する方向に進めるべきであるとの発言が後藤氏よりあつた。

### 3. 作業経過報告

#### (1) 文献調査

坂本氏より大要次のような報告があった。 Conference の論文割り当ては未だやっていないので、近日中にする。既に整理済みのものは新しいシートに貼りつける方法で切り替えている。未整理のものが 50 枚ほどあるが、これは坂本氏と千原氏で写しかえている。今月中に一部パンチしてみる。プログラムの方は F A C O M が入って、ごたごたしたため少し遅れている。来月中にはテストできる。その後の文献割り当て作業は未だしていないのでそのうちする。記入法については実際に記入してみると問題が出てくるので F O R M A T をもう少し変えるかも知れない。はつきり決つたらお知らせする。

坂本氏より資料(2)について説明があった。

#### (2) 計算関係

角谷氏より G A S K E T, T H R U S H, D I P コード等を用いて  $D_2O$  について計算した結果についての報告があった。拡散係数の値は良く合うようになったとのことであった。 $D_2O$  の干渉散乱項は大きく相殺されることが具体的に示された。エネルギーが低いところでの干渉効果をもう少し詳しく調べがみるとことであった。

### 4. その他

#### (1) Heinloth の論文紹介

関谷氏より Heinloth の論文 Streuung subthermischer Neutronen an  $H_2O$ ,  $CH_2O_2$  und  $C_6H_6$  の紹介があった。

#### (2) シルコニウム・ハイドライドの散乱断面積

中原氏より  $ZrH_{15}$  についての計算した結果についての報告があった。